棟札・幣串の編年

和歌山県橋本市中心市街地の棟札・幣串

THE TRANSITION OF
MUNAFUDA・HEIGUSHI
IN CENTRAL HASHIMOTO,
WAKAYAMA PREFECTURE梅嶋 修 —— * 1 平山育男 —— * 2
西澤哉子 —— * 3Osamu UMEJIMA —— * 1 Ikko HIRAYAMA —— * 2
Kanako NISHIZAWA —— * 3キーワード：
棟札, 幣串, 年紀, 全高, 編年, 近似Keywords：
MUNAFUDA, HEIGUSHI, Name of an era, Total height, Transition,
Approximation

Munafuda・Heigushi, in this research, are blessed wooden plates for invocations at construction works. The analysis of 91 historic *Munafuda・Heigushi* of Hashimoto, Wakayama identified as follows; (1) *Munafuda*-style changed to blank *Heigushi*-style around 1850's. *Heigushi*-style with inscription restarted since 1910's. (2) Vertical heights of *Munafuda・Heigushi* were extended with time; in particular *Heigushi*-style with inscription was remarkably heightened after 1910's. The transition of *Munafuda・Heigushi* could be identified by collecting and analyzing multiple *Munafuda・Heigushi* in a region; therefore, by using it, even blank *Munafuda・Heigushi* could support identifying construction ages.

1. はじめに

和歌山県橋本市の中心市街地にあたる橋本、古佐田、東家地区の調査¹⁾においては、32軒44棟の建物に棟札²⁾・幣串³⁾91点を確認した⁴⁾。確認した棟札・幣串⁵⁾は必ずしも年紀を記す訳でなく、全く記載のない無記述のものも多数存在する。従来、このような年紀・記述を欠く棟札・幣串は建築調査の一資料として存在のみが報告される傾向にあったが、当調査を通じては、これら棟札・幣串が一定の数量を得られたことから、年紀による建築年代の判断に用いるだけでなく、棟札・幣串としての構成要素である年紀・記述の有無、形式・形状、大きさ(全高・巾・厚等)等の整理を行った(表1・表2)。

本論は橋本の町並みで確認された棟札・幣串を整理し、その編年を行うものである。

2. 既往の研究

建築史研究においては、棟札・幣串に関する研究の蓄積によって、とりわけ棟札の史料価値が認められ、現在は年紀や記述の内容によって「附」として文化財指定されることもあり、棟札の大きさが門尺によって決められることになったともいう⁶⁾。また、棟札の記述を整理することで多くの情報を得られることが周知され、日向進、西和夫氏らによっては近世社寺建築とその棟札を基に大工の居住地と工事場、営業圏の関係を明らかにする⁷⁾等、多数の論考をみることができる。しかし、管見の限り既往の研究において無記述である棟札・幣串の取扱や価値に言及するものは確認できず、これらを含めた棟札・幣串を一定地域で整理し、建物の編年指標として考察する試みが十分には行われていない。

本論は和歌山県橋本市という一地方都市における棟札・幣串の研究に留まらず、無記述の棟札・幣串の取扱方や価値を見出すと共に、町並み調査における編年の一手法を探るものといえる。

3. 橋本における棟札・幣串の概要

1) 棟札・幣串の残存率⁸⁾

これまでに調査を行った90軒の建物に対して、現時点で32軒(36%)に棟札・幣串を確認した。時代は前後するが、少なくとも約4割の軒数で棟札・幣串が作成されている。内部調査を行った主要建物は177棟⁹⁾で、44棟(25%)の建物に棟札・幣串を確認した。44棟の内、年紀を記すものは23棟(52%)で、調査数全体からみると主要建物の13%¹⁰⁾が棟札・幣串の記述を根拠に建築年代と考えることができた。

棟札・幣串が確認された建物の種別は、近世では町家が圧倒的に多く、この他は宗教施設で確認できる程度であった。近代になると長屋、工場建築にも棟札・幣串が確認できるようになる。なお、棟札・幣串が確認された建物44棟の内訳は、主屋¹¹⁾:24棟(55%)、土蔵・倉庫:10棟(23%)、離れ座敷:5棟(11%)、その他(宗教施設、工場、病院棟):5棟(11%)とする。内部調査を行った建物数を母数とすれば、主屋:24棟/84棟(29%)、土蔵・倉庫:10棟/42棟(24%)、離れ座敷:5棟/21棟(24%)となる¹²⁾。特に長屋は付属屋を持たない場合が多く、必然的に主屋での確認数が多数を占めるものの、割合を見る限り、棟札・幣串の作成は特定の建物種別・用途に限定された行為ではないといえるだろう。

2) 棟札・幣串の年紀

橋本で確認された棟札・幣串91点に対して50点(55%)に年紀が記

*1 (株)グリーンシグマ 修士(造形)
(〒950-2042 新潟市西区坂井700-1)

*2 長岡造形大学造形学部建築・環境デザイン学科 教授・博士(工学)

*3 長岡造形大学デザイン研究開発センター研究員 修士(造形)

*1 Member of Green-sigma Co., Ltd., M. Design

*2 Prof., Dept. of Architecture and Environment Design, Faculty of Design, Nagaoka Institute of Design, Dr. Eng.

*3 Researcher of Design Research & Development Center, Nagaoka Institute of Design, M. Design

された。この内、最も古い年紀を記すものは池永一子家住宅下手土蔵の棟札(通No.1¹³⁾、貞享4・1687年)である。主屋に限れば火伏医院主屋の棟札(通No.2、享保6・1721年)が棟木に和釘で打ち止められており、同建物は建築年代の明らかな町家建築として和歌山県内で最も古のものと確認される。なお、上記は棟札の形式を採るもので、幣串の形式において最も古い年紀を記すものは旧木村家住宅主屋の幣串(通No.28、大正3・1914年)である¹⁴⁾。また、最も新しい年紀を記すものは稲作金物店主屋の幣串(通No.49、昭和32・1957年)である¹⁵⁾。

この他、年紀を記した棟札・幣串は各時代において確認ができ、橋本においては、近世から少なくとも昭和30(1955)年代頃までは棟札・幣串の作成が一般的に行われていたと考えられる。

4. 棟札・幣串の編年

橋本における棟札・幣串について、年代と全高の関係を図1にまとめ、棟札・幣串全体、棟札のみ、幣串のみ等、種別毎に全高の近似値を直線で示した。以下、表1・表2、図1を参考に棟札・幣串の形式、年紀、大きさ(全高・巾・厚)の関係等について考察を行った。

1) 形式と年紀の関係

橋本における棟札・幣串は、近世まで殆どが棟札の形式を採り、年紀等の記述が行われた。江戸時代末期になると無記述で幣串の形式を採るものが現れ、明治時代には多数を占めた¹⁶⁾。なお、棟札の

形式を採るものは、みそや別館主屋の棟札(通No.26、明治17・1884年)を最後に確認されていない¹⁷⁾。大正時代以降、棟札・幣串は完全に幣串の形式へ移り変わり、幣串に対して年紀等の記述が再び行われ始め、昭和時代初期には記述の実施が定着したと考えられる¹⁸⁾。

2) 大きさ(全高・巾・厚)の変遷

全高 近世までの棟札は、全高が平均1尺8寸程度で、大きいものが2尺を越える程度とする。一方、幣串の全高は明治時代には2尺を越える程度であったが、大正時代以降は3尺を越えるものを始め、

写真 左:火伏医院主屋 棟札(通No.2、享保6・1721年)
中:稲竹醤油工場 幣串(通No.61-63、明治時代後期)
右:稲作金物店主屋 幣串(通No.49、昭和32・1957年)

表1. 橋本における年紀を有する棟札・幣串一覧

通No.	棟No.	名称	建物 種別	用途	棟札・幣串の年紀	棟札・幣串	棟札・幣串の大きさ[尺]	釘	類
					年	月日	形式 記述 全高 肩高 上幅 下幅 厚	種別	有無
1	1	池永一子家住宅	町家	下手土蔵	貞享4(1687)年	6月	棟札 ○ 1.875 1.85 0.395	和	-
2	2-1	火伏医院	町家	主屋	享保6(1721)年	[初夏]	棟札 ○ 1.66 1.63 0.39	和	-
3	3-1	土生家住宅	町家	主屋	延享2(1745)年	11月	棟札 ○ 1.35 1.34 0.315	和	-
4	1	池永一子家住宅	町家	下手土蔵	延享2(1745)年	12月	棟札 ○ 2.375 2.37 0.44	和	-
5	4	服装百貨まるに	町家	主屋	宝暦13(1763)年	12月[極月]	棟札 ○ 1.58 1.56 0.305	-	-
6	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和2(1765)年	3月	棟札 ○ 2.39 2.37 0.46	-	-
7	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和3(1766)年	5月	棟札 ○ 1.38 1.375 0.29	-	-
8	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和3(1766)年	3月	棟札 ○ 2.375 2.37 0.45	-	-
9	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和3(1766)年	1月[正月]	棟札 ○ 1.675 1.67 0.33	-	-
10	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和3(1766)年	12月	棟札 ○ 1.61 1.59 0.28	-	-
11	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和4(1767)年	12月	棟札 ○ 1.46 1.44 0.29	-	-
12	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和4(1767)年	1月[正月]	棟札 ○ 1.66 1.64 0.31	-	-
13	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和5(1768)年	1月[正月]	棟札 ○ 1.66 1.655 0.32	-	-
14	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和5(1768)年	12月	棟札 ○ 1.8 1.76 0.35	-	-
15	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和6(1769)年	12月[極月]	棟札 ○ 1.52 1.49 0.35	-	-
16	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和6(1769)年	1月[正月]	棟札 ○ 1.675 1.66 0.34	-	-
17	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和7(1770)年	9月	棟札 ○ 1.35 1.335 0.29	-	-
18	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和8(1771)年	1月[正月]	棟札 ○ 1.68 1.67 0.34	-	-
19	4	服装百貨まるに	町家	主屋	明和9(1772)年	1月[正月]	棟札 ○ 1.67 1.66 0.32	-	-
20	5-1	旧堀田・旧大谷・岩橋家住宅	町家	主屋	安永6(1777)年	9月	棟札 ○ 2.47 2.43 0.44	-	-
21	1	池永一子家住宅	町家	下手土蔵	文化5(1808)年	5月	棟札 ○ 1.535 1.5 0.42	和	-
22	6	煙草金物店	町家	主屋	文政5(1822)年	3月	棟札 ○ 1.365 1.35 0.3	和	-
23	6	煙草金物店	町家	主屋	天保9(1837)年	5月	棟札 ○ 1.435 1.405 0.3	和	-
24	7-1	応真寺	寺院	山門	安政4(1857)年	9月	棟札 ○ 3.14 3.01 0.78	和	-
25	8	米坂洋服店	町家	主屋	安政4(1857)年	/	棟札 ○ /	/	-
26	9	みそや別館	町家	主屋	明治17(1884)年	3月23日	棟札 ○ 2.07 2.005 0.5	洋	-
27	10	橋本基督教教会	教会	礼拝堂	明治33(1900)年	7月9日	十字架 ○ 3.11 - 0.21 (1.815)	洋	-
28	11-1	旧木村家住宅	町家	主屋	大正3(1914)年	6月25日	幣串 ○ 3.24 - 0.22	洋	-
29	a	[平井家住宅]-1	/	/	大正8(1919)年	8月21日	幣串 ○ 4.015 - 0.23	洋	-
30	12	山内家住宅	町家	主屋	大正8(1919)年	10月23日	幣串 ○ 2.7 - 0.14	洋	-
31	b	[平井家住宅]-2	/	/	大正8(1919)年	12月10日	幣串 ○ 5.5 - 0.3	-	○
32	c	[嶋家住宅]	/	/	大正9(1920)年	5月16日	幣串 ○ 4.57 - 0.225	洋	○
33	13-1	大谷薬局	町家	倉庫	大正13(1924)年	/	幣串 ○ /	/	洋
34	d	[西家住宅]	/	/	大正14(1925)年	11月3日	幣串 ○ 2.35 - 0.19	-	-
35	e	[福井家住宅]	/	/	大正15(1926)年	10月3日	幣串 ○ 6.19 - 0.25	-	○
36	f	[斎宮家住宅]	/	/	大正15(1926)年	11月20日	幣串 ○ 3.225 - 0.17	洋	-
37	g	[栗井家住宅]	/	/	大正15(1926)年	11月26日	幣串 ○ 2.38 - 0.105	-	-
38	13-2	大谷薬局	町家	主屋	大正15(1926)年	/	幣串 ○ /	/	洋
39	h	[田中家住宅]	/	/	昭和2(1927)年	1月22日	幣串 ○ 2.8 - 0.175	-	-
40	14	旧木村洋装店	町家	離れ座敷	昭和4(1929)年	12月4日	幣串 ○ /	/	洋
41	i	[奥村家住宅]	/	/	昭和6(1931)年	2月9日	幣串 ○ 3.36 - 0.23	-	-
42	15	柏谷・旧北田家住宅	長屋	主屋	昭和10(1935)年	10月7日	幣串 ○ 2.945 - 0.23	洋	-
43	16	西野自転車店	長屋	主屋	昭和10(1935)年	12月25日	幣串 ○ 3.07 - 0.21	洋	-
44	17	三林家住宅	町家	主屋	昭和11(1936)年	2月28日	幣串 ○ 4.595 - 0.24	洋	-
45	j	[土井家住宅]	/	/	昭和11(1936)年	10月30日	幣串 ○ 3.53 - 0.29	-	-
46	11-2	旧木村家住宅	町家	下手土蔵	昭和13(1938)年	11月6日	幣串 ○ 2.44 - 0.165	洋	-
47	18	旧加藤家住宅	町家	主屋	昭和29(1954)年	5月4日	幣串 ○ 4.985 - 0.29	洋	○
48	5-2	旧堀田・旧大谷・岩橋家住宅	町家	離れ座敷	昭和31(1956)年	8月23日	幣串 ○ 3.12 - 0.14	洋	-
49	19-1	稲作金物店	町家	主屋	昭和32(1957)年	3月29日	幣串 ○ 4.93 - 0.28	洋	○
50	7-2	応真寺	寺院	客殿	昭和62(1987)年	9月	棟札 ○ 3.5 3.36 0.8	-	-

最大で6尺を超えるものが現れた。但し、3尺を超える幣串の殆どは記述を有する¹⁹⁾一方、年紀・記述を欠く幣串は3尺未満のものが多数を占めており、幣串の全高は記述の有無によって2つの傾向に分けて見ることもできよう。

図1によれば、近世まで棟札の全高は緩やかに増加する傾向にあり、江戸時代末期から明治時代に幣串の形式を採り始めた際も全高の増加は同様に緩やかであったが、大正時代以降の幣串には記述の実施を前後に全高を著しく増加させるものが確認できる。なお、上記を勘案しても、棟札・幣串の全高は形式の相違に関係なく、時代の下降に対し連続的に増加する傾向が認められ、棟札・幣串全体の近似直線によれば、全高は凡そ100年で0.9尺伸びたといえる²⁰⁾。

巾 近世までの棟札の多くは、巾が3~4寸程度とする。明治時代以降の幣串の巾は1寸を超える程度とするが、大正時代以降には2寸を超えるものが現れる。

厚 近世までの棟札は、厚が1~5分程度とする²¹⁾。明治時代以降の幣串の厚は5~7分程度の値を示し、大正時代以降になると1寸前後のものが確認できる。

巾・厚は幣串の数値を見る限り、全高に比例して増加する傾向が窺える。但し、前述のように、棟札・幣串は江戸時代末期から明治時代

以降、棟札(板材)の形式から幣串(平角材)の形式へと移行するため、近世から近代を通じた年代と巾・厚の比例関係は見受けられない。

3) その他、棟札・幣串の傾向

釘 橋本の棟札・幣串は、一般に棟木・棟束等に釘止めされた状態にあった²²⁾。この内、みそや別館主屋の棟札(通No.26、明治17・1884

図1 棟札・幣串の全高分布図及び近似直線

表2 橋本における年紀を欠く棟札・幣串一覧

通No.	棟No.	名称	建物 種別	用途	建物の建築年代		月日	棟札・幣串		棟札・幣串の大きさ[尺]					釘 種別	原 有無
					年	月		形式	記述	全高	肩高	上幅	下幅	厚		
51	4	服装百貨まるに	町家	主屋	[明和年間(1764-72)]		-	棟札	○	1.64	1.635	0.33	0.33	0.03	-	-
52	20	辻田家住宅	町家	土蔵	[江戸時代後期]		-	幣串	×	2.145	-	0.115	-	0.05	和	-
53	11-3	旧木村家住宅	町家	上手土蔵	[江戸時代末期]		-	幣串	×	1.38	-	0.1	-	0.07	和	-
54	11-3	旧木村家住宅	町家	上手土蔵	[江戸時代末期]		-	幣串	×	1.48	-	0.105	-	0.065	和	-
55	21-1	小林家住宅	町家	主屋	[嘉永3(1850)年頃]		-	幣串	×	2.125	-	0.12	-	0.1	和	-
56	19-2	稲作金物店	町家	離れ座敷	[明治時代初期]		-	幣串	×	2.445	-	0.105	-	0.06	和	-
57	21-2	小林家住宅	町家	土蔵	[明治時代中期]		-	幣串	×	2.45	-	0.125	-	0.07	洋	-
58	22	カウどん	町家	北棟	[明治時代後期]		-	幣串	×	2.03	-	0.175	-	0.07	洋	-
59	22	カウどん	町家	南東棟	[明治時代後期]		-	幣串	×	2.12	-	0.17	-	0.11	洋	-
60	22	カウどん	町家	南西棟	[明治時代後期]		-	幣串	×	2.2	-	0.155	-	0.05	洋	-
61	23	稲竹醤油工場	工場	工場	[明治時代後期]		-	幣串	×	2.035	-	0.1	-	0.07	洋	-
62	23	稲竹醤油工場	工場	工場	[明治時代後期]		-	幣串	×	2.04	-	0.1	-	0.07	洋	-
63	23	稲竹醤油工場	工場	工場	[明治時代後期]		-	幣串	×	2.28	-	0.15	-	0.05	洋	-
64	24	堀江家住宅	町家	土蔵	[明治時代後期]		-	幣串	×	2.315	-	0.105	-	0.055	洋	-
65	25-1	カネマサ醤油店	町家	主屋	[江戸時代末期] [明治時代末期]		-	幣串	×	1.8	-	0.145	-	0.06	洋	-
66	25-2	カネマサ醤油店	町家	離れ座敷	[明治時代末期]		-	幣串	×	1.51	-	0.1	-	0.05	洋	-
67	26	つつみ文具店	町家	土蔵	[江戸時代後期] [明治時代末期]		-	幣串	×	2.16	-	0.15	-	0.06	洋	-
68	3-2	土生家住宅	町家	離れ座敷	[明治時代末期]		-	幣串	×	2.755	-	0.12	-	0.1	洋	-
69	27	旧橋本電気機発電所	工場	工場	[明治43(1910)年頃]		-	幣串	○	5.045	-	0.25	-	0.106	洋	-
70	28	吉川家住宅	長屋	主屋	[大正時代初期]		-	幣串	×	1.98	-	0.105Φ	-	0.105Φ	洋	-
71	29	菅野家住宅	町家	主屋	[大正時代]		-	幣串	×	1.21	-	0.12	-	0.055	洋	-
72	24-3	カネマサ醤油店	町家	製品倉庫	[大正時代]		-	幣串	×	2.31	-	0.15	-	0.1	洋	-
73	30	奥村家長屋	長屋	主屋	[大正時代]		-	幣串	×	2.53	-	0.15	-	0.05	洋	-
74	19-3	稲作金物店	町家	土蔵	[大正時代]		-	幣串	×	2.6	-	0.19	-	0.11	洋	-
75	12	山内家住宅	町家	主屋	[大正8(1919)年]		-	幣串	×	2.7	-	0.14	-	0.04	洋	-
76	2-2	火伏医院	町家	病院棟	[大正時代末期]		-	幣串	/	/	/	/	/	/	/	/
77	31	橋本家長屋	長屋	主屋	[大正時代末期]		-	幣串	×	2.42	-	0.16	-	0.05	洋	-
78	32	上田屋寝具店	町家	中央棟	[昭和9(1934)年・文書]	[4月5日]	-	幣串	○	4.86	-	0.26	-	0.1	洋	-
79	k	(福井家住宅)-1	/	/	-	-	-	幣串	×	1.885	-	0.145	-	0.11	-	-
80	l	(福井家住宅)-2	/	/	-	-	-	幣串	×	2.105	-	0.125	-	0.085	-	-
81	m	(福井家住宅)-3	/	/	-	-	-	幣串	×	2.36	-	0.155	-	0.06	-	-
82	n	(福井家住宅)-4	/	/	-	-	-	幣串	×	2.41	-	0.145	-	0.05	-	-
83	o	(福井家住宅)-5	/	/	-	-	-	幣串	×	2.49	-	0.155	-	0.065	-	-
84	p	(福井家住宅)-6	/	/	-	-	-	幣串	×	2.495	-	0.155	-	0.05	-	-
85	q	(福井家住宅)-7	/	/	-	-	-	幣串	×	2.495	-	0.095	-	0.08	-	-
86	r	(福井家住宅)-8	/	/	-	-	-	幣串	×	2.505	-	0.19	-	0.1	-	-
87	s	(福井家住宅)-9	/	/	-	-	-	幣串	×	2.695	-	0.18	-	0.09	-	-
88	t	(福井家住宅)-10	/	/	-	-	-	幣串	×	3.0	-	0.245	-	0.11	-	-
89	u	(福井家住宅)-11	/	/	-	-	-	幣串	×	3.05	-	0.14	-	0.055	-	-
90	v	(福井家住宅)-12	/	/	-	-	-	幣串	×	3.11	-	0.17	-	0.05	-	-
91	w	[粉生家住宅]	/	/	-	-	-	幣串	○	6.61	-	0.35	-	0.145	洋	○

凡例 表1は年紀の記された棟札・幣串を古いものから順に並べた。表2は年紀を欠く棟札・幣串を推定建築年代の古いものから順に並べた。なお、推定建築年代は建物本体から推定したもので「年紀」欄の「」内に示した。「通No.」は上記の順番に準じ、表1・表2を通して棟札・幣串毎に付した。「棟No.」は親番号を物件毎、枝番号を棟毎に付した。但し、対応する建物がない福井家の幣串(本文・注4参照)は棟No.としてアルファベットを「a」から順に付し、年紀の無いもの(通No.79~91)は全高の小さいものから順に並べた。なお、これらの名称は幣串に記述される施主名を参考に「」書きとし、記述の無いものは便宜上(福井家住宅)と記し、枝番号を付した。また、「平井」姓を記す幣串が2点存在する(1点は名前前の記述を欠く)ため、同様に枝番号を付した。

「-」は数値や存在が得られない(下幅は上幅と同じで省略した)ものを示し、「/」は未調査のものを示す。
服装百貨まるに主屋(通No.5~19、51)の棟札は東西の棟束に荒縄でくりつけられていたため、「釘」欄は「-」とした。「つつみ文具店土蔵(通No.64)、カネマサ醤油店主屋(通No.66)は近世の建築と推定されたが幣串は洋釘止めとするため、修理等に伴うものと考えた。上記2点の幣串は推定される作成年代を「年紀」欄下段の「」内に示した。橋本基督教教会礼拝堂(通No.27)には二本の角材を釘で打ち止めて十字架型にしたものが確認された。「形式」欄は棟札・幣串に分類せず「十字架」と記し、「上幅」欄「」内の数値は十字架型の全幅を示す(本文・注17参照)。吉川家住宅主屋(通No.68)の幣串は竹製で「上幅」「厚」欄の数値は竹の直径を示す。

年)が最も古い洋釘止めのものとして確認されている²³⁾。同建物は棟札だけでなく、二階座敷天井の吊木が洋釘で止められていた一方、一階物入の床板や階段裏板の目板等は和釘で止まっており、この頃が橋本における洋釘への転換期と考えられた。これにより、無記述の幣串も打ち止めた和釘・洋釘の種類によって年代を大きく二分することができる。

扇の有無 近代の幣串には上端より切込を設け、紙垂が掛けられるが、加えて表面に扇が固定されていたもの、もしくは扇を固定する棧木を残すものが確認された。扇を掛けた幣串は、全高4.5尺を越えるものに限られ、この傾向は大正時代から昭和戦後期の幣串の特徴といえる。

棟札・幣串の作成時期 月日が記された棟札・幣串は全46点確認され、この内12月が9点(20%)、1月が7点(15%)と多く計3割を数えており、棟札・幣串の作成は年末年始に多い傾向が認められる。

5. まとめ

以上、橋本における棟札・幣串について形式、年紀の有無、大きさ等を整理した結果、以下の2点が判明した。

- 1) 棟札・幣串は近世まで棟札の形式を採り、年紀等の記述が行われていた。江戸時代末期頃から無記述の幣串が現れ始め、明治時代には多数を占めた。大正時代になると棟札・幣串の形式は完全に幣串へと移り変わり、年紀等の記述が再び行われ始め、昭和時代初期には記述の実施が定着した。更に無記述の幣串は打ち止めた和釘・洋釘の種類で年代を大きく二分することができ、大正時代以降は全高の大きいものに扇を掛ける傾向がある。
- 2) 棟札・幣串の全高は形式(棟札・幣串)の相違に関係なく、時代の下降に対して増加の傾向が認められる。但し、大正時代以降、形式は幣串に変わり、記述の実施を前後に全高を著しく増加させるものが現れた。

棟札・幣串はその性格上、建築本体と年代がほぼ一致すると考えて差し支えない。このため、調査対象とする建物における棟札・幣串の有無に拠る所はあるものの、本論のように一定地域において数量を得ることで編年が可能であり、年紀を欠く棟札・幣串もこの指標に照合させることで、建物本体の建築年代を推定することができよう。

また、棟札・幣串による編年は建物の種別、用途に関わるものではなく、民家(町家・長屋・近代建築)、社寺、工場等のように建築形式、外観が大きく異なる建物でも、同じ指標を用いた編年が可能であり、町並み調査における有用性を指摘できよう。

謝辞:調査を通じ、橋本市及び各住宅の所有者の方々等にお世話になった。記して謝意を表す。本研究は平成18年度科学研究費補助金基盤研究(C)17560577の助成による研究成果の一部である。

注

- 1) 同地区には近世から近代にかけての良質な町家・長屋が多数存在する。しかし、都市再開発計画に伴う区画整理事業によって、江戸時代以来の古い町並みが消失の危機にさらされており、市の委託事業として平成11(1999)年度より平成14(2002)年度まで町並み調査を実施した。調査結果は下記の報告書として刊行された。なお、継続して東家地区を中心とした調査を平成17(2005)年度以後、実施している。
橋本の町と町家の研究会編『橋本の町と町家 中心市街地伝統的町並み調査の記録 1999-2002』、橋本市、2002.3
- 2) 棟札とは「建物の新築・再建・修理を行ったときに、施主・施工者(大工)の氏名・年号・祈願文などを墨書した細長い板。通常は上部を駒形とし棟木に打付ける。(後略)」(下出源七編『建築大辞典』、彰国社、pp.1499-1500、1974.10)、「棟上げの時、工事の由緒、建築の年月、建築者または工匠の名などを記して棟木に打ち付ける札。頭部は多く山形をなす。(後略)」(新村出編『広辞苑』第3

版、櫛岩波書店、p.2336、1983.12)とされる。本論では墨書等の記述を有した上部を駒形とする五角形の札(板材)を形式上「棟札」と称することとする。また、橋本では「家内安全」等、広義の祈願文を記すものや、具体的な儀式・祈祷内容(上棟・造営・建立・柱立等)の記述が無い一般的な祈禱札に近いものも散見される。但し、これらも棟木・棟束等に釘で打ち付けられるか、もしくは、同位置に荒縄等でくくりつけられていたものであり、建築と密接な関係にあると推測できる。

- 3) 幣串とは「祓(はらえ)に用いる串で、麻・木綿(ゆう)などを掛けた櫛(さかき)や竹」(『広辞苑』第3版、p.2149、注2)前掲)とされる。橋本ではスギやヒノキの平角材に紙垂(しで)を掛けるものが大半を占め、加えて扇を掛けるものが僅かに確認された。本論では紙垂(しで)、扇等を掛けた棒状の平角材を形式上「幣串」と称することとする。なお、橋本における大正時代から昭和時代初期の幣串に記される祝文は「上棟式」「祝上棟」「祝上棟式」等、文言は異なるものの、全て「上棟」を示す。
- 4) 一棟から複数の棟札・幣串が確認される場合もある。なお、存在は確認されたが、未調査のものも含む。これとは別に棟木に棟札を取り外した痕跡のあるものが1棟確認された。また、福井家住宅の調査においては、主屋中二階から建築関連の幣串23点(表1・表2の棟Naa~w)を確認したが、同幣串は左官職も営んだ明治20(1887)年生の先代が、当時仕事先の上棟式で譲り受けたものを所有したとされ、同家の敷地内に現存する建物の建築年代を直接示す資料ではない。現時点では同幣串に対応する建物の確認は行っていないため、以下、棟札・幣串の点数に含むが、建物の軒数・棟数には含まない。福井家住宅が所有する幣串の詳細は下記資料参照。
梅嶋、平山、御船達雄、西澤・福井家が所有する幣串-橋本における大正時代から昭和時代初期までの幣串 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究その55、日本建築学会2007年度大会(九州)学術講演梗概集F-2、pp.83-84、2007.8
- 5) 本論においては「棟札」と「幣串」の総称を「棟札・幣串」と併記する。
- 6) 『建築大辞典』、pp.1499-1500、注2)前掲。
- 7) 日向進、市川定男、杉浦邦久・若狭の大工と営業圖、『若狭』第27号、pp.13-23、1981
- 8) 西和夫・棟札に見る大工の居住地と工事場-横浜の近世社寺建築を中心とする検討、神奈川大学日本常民文化研究所論集3 歴史と民俗、pp.158-187、1988.1
- 9) 調査開始当初は旧街道沿いの町家を中心に調査を行った。現在までに周辺の長屋等も調査対象として推し進めているが、町家と同程度の調査数を得ておらず、長屋における棟札・幣串の確認数によっては今後、残存率が大きく変動する可能性がある。
- 10) 平成19(2007)年2月までに行った調査物件を対象とする。調査物件には、町家、長屋、旅館、近代建築、宗教施設、工場、公共施設等、町並みを構成する建物全てを含む。主要建物の棟数は築後約50年経過したものを基本とし、主屋に付随した小規模な台所・便所・風呂棟等は総数に含めていない。
- 11) 但し、この他に瓦銘、文書等を根拠に建築年代の明らかな建物があり、これらを含めると建築年代の明らかな建物の割合は増加する。
- 12) ここでの「主屋」は、住宅用途を持った敷地内の最も主要な建物とした。住宅用途を持たない宗教施設や工場は含まないが、寺院庫裏や住宅を兼用した教会礼拝堂等は「主屋」に含んだ。
- 13) その他調査物件の用途として、後世に増築された居室棟、病院棟、郵便局舎、門、工場、宗教施設等がある。
- 14) 以下、「通Na」、「棟Na」は表1・表2を参照。
- 15) 但し、旧橋本電気開発所(通Na69、明治43・1910年頃)の幣串は年紀を欠くが、施主として社名を記しており、幣串に対する記述としては最も早い。
- 16) 応其寺では昭和62(1987)年の客殿建築の際に棟札を作成している(通Na50)が、近年のものでこれを除いた。
- 17) なお、現在までに明治時代の年紀を記した幣串は確認できない。一方、年紀を欠く棟札・幣串を有する建物の殆どは明治時代から大正時代の建築と推測された。橋本における町家の編年の詳細は、注1)、pp.458-469を参照。
- 18) 橋本基督教教会礼拝堂(通Na27、明治33・1900年)に二本の角材を釘で打ち止めて十字架型にしたものが確認されているが、棟札・幣串のいずれにも分類せず、表1の「形式」欄は「十字架」と記した。
- 19) 現時点では大正時代の幣串には記述を有するもの、記述を欠くものの双方が確認できるが、明らかに昭和時代初期まで降る建物の棟札・幣串で、記述を欠くものはごく僅かと考えられ、記述の実施が定着したのは昭和時代初期と判断した。なお、福井家住宅の棟札・幣串23点(棟Naa~w)は、大正時代から昭和時代初期頃までのものと判断でき、全て幣串の形式を採る(注4)参照)。この内13点が大正時代から昭和時代初期の年紀を記し、残る10点が全く記載のない無記述のもので、上記の編年から大きく逸脱するものではない。また、上田屋寝具店中央棟(通Na78、昭和9・1934年・文書)の幣串は年紀を欠くが、祝文と施主の氏名が記される。
- 20) 旧橋本電気開発所主屋(通Na69)、上田屋寝具店中央棟(通Na78)の幣串は全高5尺前後で年紀を欠くが、祝文、施主の氏名(社名)等が記述される。
- 21) 図1に示した棟札・幣串全体の近似直線を数式に表すと $y=0.0088x-13.905$ [x =西暦(年) y =全高(尺)]となり、棟札・幣串の全高について1年当たりの増加数が推測できる。また、調査によって全高を得た棟札・幣串の年代は $x=39.925y+1763$ [x =西暦(年) y =全高(尺)]によって推測できる。但し、大正時代以降の棟札・幣串は記述の有無によって全高に異なる傾向があり、同じ条件下に無いため、現状では参考程度に留まる。
- 22) 近世の棟札・幣串にはチョウナ仕上げのものもあり、若干の実測誤差を含む。
- 23) 一部、既に取り外されて小屋裏に存置されるものや、建物内に別置されるものも確認された。なお、福井家住宅の棟札・幣串23点(表1・表2の棟Naa~w)の内、19点は棟木・棟束等への固定に用いた釘の痕跡が無く、建物本体へ固定されずに福井家へ手渡されたと考えられる。注4)参照。
- 24) 同棟札は2本の洋釘で小屋裏の大黒柱に打たれていた。みそや別館の詳細は下記資料及び注1)、pp.216-225を参照。
御船、平山・橋本における明治中期の京風町家について、『民俗建築』118、日本民俗建築学会、pp.56-62、2000.11

本稿の内容の一部は、下記梗概にて発表している。
梅嶋、平山、西澤・祈禱札の編年-和歌山県橋本市中心市街地の祈禱札-、2006年度日本建築学会関東支部研究報告集、pp.317-320、2007.3
梅嶋、平山、御船、西澤・福井家が所有する幣串-橋本における大正時代から昭和時代初期までの幣串 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究その55、日本建築学会2007年度大会(九州)学術講演梗概集F-2、pp.83-84、2007.8

[2007年4月18日原稿受理 2007年7月26日採用決定]